

ティナ「いきなり混浴なんて…恥ずかしいかもしれませんけどお…」

滯「でもここは一応…ふう～～っ…超高級ソーランドってことなんですよお…♡」

ティナ「ほらぁ…貸し切り温泉旅館でえ…ソーププレイの始まり始まりい～～♡」

滯「ふう～～っ…でもお…お風呂の前にい…かけ湯はぁ…ちゃんとしましょうねえ～～」

ティナ「んん～～っ…ほらぁ…私がかけてあげるからぁ…じっとしててえ～～」

滯「ふう～～っ…温度はぁ…大丈夫みたぁ～～い♡おまけにい…私もお…かけてあげまぁ～～す♡」

ティナ「それじゃぁ…今度こそ…お風呂に入りましょ…ふう～～っ…はぁ～～っ…」

滯「はぁ…気持ちいい…いいお湯ですねえ…はぁ～～っ…んはぁ～～っ」

ティナ「(ここは脱力した感じで) ん～～っ…はぁ～～っ…気持ちいい…まずはエッチの前にい…お風呂で…癒されましようねえ…はぁ～～っ…ふう～～っ」

滯「うふふっ…癒やしとエッチ…両方ともお…欲張っていいんですよお…はぁ～～っ…はぁっ」

ティナ「はぁ～～っ…こんなに広い浴場なのに…三人だけで使っちゃってえ…すごい贅沢ねえ～～っ…ふう～～っ」

澪「ふう～～っ…今日はあ…温泉で贅沢しながらあ…私達とお…エッチ三昧♡はあ～～っ…ふう～～っ」

ティナ「はあ～～っ…それにしてもお…素敵なお体ですねえ…はあ～～っ…ふう～～っ」

澪「はあっ…はあっ…ほんと…たくましい人お…ふう～～っ…もちろん…あそこもすごお～～いつ♡レロ～～っ…ふう～～っ」

ティナ「んもうっ…いきなりそういう話なのお…ふう～～っ…はあ～～っ…でもお…私達のエッチなボディ…じっくり見ていいんですよお～～っ♡レロ～～っ」

澪「はあ～～っ…私のお…お風呂で紅潮した肌あ…色っぽいですかあ～～♡ふう～～っ」

ティナ「ほっぺた赤くなっちゃってえ…はあ～～っ…赤ちゃんみたいで…可愛いでしょお…レロ～～っ」

澪「はあ～～っ…あなたもお…ふう～～っ…体の芯から温まって…血の巡りが良くなってきたみたい…ふう～～っ…レロ～～っ」

ティナ「はあ～～っ…こうやって…あったまって…肩こりの原因になってるう…溜まった血液もほぐしちゃいましょうねえ…はあ～～っ…気持ちいいでしょお～～っ…ふう～～っ」

澪「ふう～～っ…はあ～～っ…ついでに…のぼせちゃうくらい…ドキドキさせちゃおうかしらあ…レロレロ～～っ」

ティナ「ふう～～っ…ほらあ…こっち見てえ…ふう～～っ…はあ～～っ…私い…今日はずっとお…あなたのものですからあ…はあ～～っ」

澪「レロお～～っ…もうお顔があ…真っ赤なのお…もうの  
ぼせちゃいましたあ…？それとも…何か別の理由があるの  
かしらねえ…ふう～～っ…はあ～～っ…レロ～～っ」

ティナ「はあ～～っ…こうやってえ…お風呂の中でえ…ジ  
ャブジャブしちゃったりもお…楽しいでしょお～～っ…ふ  
う～～っ…顔にかかっちゃうのお…はあ～～っ」

澪「はあっ…はあっ…ほらあ…あそばないのお…それじゃ  
あ…そろそろお…二人でお背中でも…流してあげましょ  
うかあ…♡ふう～～」

ティナ「はあっ…はあっ…せっかく楽しかったのに…仕方  
ないですねえ…んはあ～～っ…でもお…一生懸命…はあっ  
…わたしもお…あなたを洗ってあげるう～～っ♡」

澪「じゃあ…一旦お風呂から上がってもらって…はあっ…  
洗面台に行きましょうねえ…ほらあ…手を貸してえ」

ティナ「はあっ…じゃあ最初にい…私達が…シャンプーし  
てあげるねえ…ふう～～っ」

澪「まずは…頭にシャワーからあ…はあっ…はあっ…温度  
はこれくらいかしらあ」

ティナ「ではあ…行きま～～す♡ふう～～っ」

澪「あら…ごめんなさあ～～い♡熱かったみたあい♡」

ティナ「ちょっとだけ温度下げるわねえ…んん～～？これ  
くらい？ふう～～っ…」

澪「はあっ…はあっ…ちょうどいい感じかしらあ…じゃあ  
…頭からあ…はあっ…はあっ…お湯をかけますよお～♡」

ティナ「ふう～～っ…熱い？大丈夫う～～？うふっ♡大丈夫みたいねえ～～」

滯「頭からのシャワー…気持ちいいかしらぁ～～？ふう～～っ…」

ティナ「はぁっ…はぁっ…じゃあ…そのまま…シャンプーしてあげるねえ…ふう～～っ♡」

滯「ほらぁ…頭にい…ふう～～っ…洗剤かけちゃいますよぉ～～っ♡」

ティナ「これから二人でえ…シャワシャワするからぁ…少しの間…目をつぶっててねえ…ふう～～っ…ゴシゴシっ…ゴシゴシっ…ふう～～っ」

滯「はぁ～～っ…ゴシゴシっ…ゴシゴシっ…♡しっかり隅々まで…マッサージしながらぁ…はぁ～～っ♡こうやって…髪の毛もお…マッサージしてあげるからねえ…ふうっ♡」

ティナ「はぁ～～っ…だからぁ…もうちょっただけえ…じっとして欲しいなぁ…はぁ～～っ…お・ね・が・い♡ふう～～っ」

滯「はぁ～～っ…落ち着きのない男の子みたぁ～～い♡ふう～～っ…はぁ～～っ」

ティナ「はぁ～～っ…お楽しみはぁ…ちゃんとお風呂でえ…全身きれいになってからぁ…ふう～～っ…はぁ～～っ」

滯「はぁ～～っ…ふう～～っ…時間はたっぷりあるんだからぁ…大丈夫なのぉ…レロお～～っ♡」

ティナ「はぁっ…ふう～～っ…んん～～っ♡痒いトコないですか～～？」

滯「ふう〜〜っ…ゴシゴシしてたらぁ…もう…髪の毛…泡だらけえ〜〜…はぁ〜〜っ…ふう〜〜っ」

ティナ「はぁ〜〜っ…目に入っていないですかぁ…？  
ふう〜〜っ…何かあったらぁ…ちゃんと言ってくださいねえ…♡んふうっ〜〜っ」

滯「ふう〜〜っ…ソープで即エッチもいいけどぉ…ふう〜〜…  
〜こういう癒やしもいいでしょ〜〜♡…ふう〜〜っ」

ティナ「はぁ〜〜っ…ちゃんと最後に…してあげるんだからぁ〜〜♡ガマンしてねえ〜〜…ふう〜〜っ…」

滯「はぁ〜〜っ…それじゃぁ…頭を流しますよぉ〜〜♡よ〜〜く目をつぶっててねえ〜〜♡レロぉ〜〜っ」

ティナ「んん〜〜っ…ジャバジャバしますよぉ♡」

滯「ふう〜〜っ…全部きれいに落ちたかなぁ〜〜っ？はぁっ…はぁっ…」

ティナ「もうちょっとかもねえ…ここらへんもお…ほらぁ…ふう〜〜っ…」

滯「ん〜〜っ…完璧い…♡お疲れ様でしたぁ」